

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービス開始に伴い、グループホーム開所時の理念を踏まえ、施設理念の再構築を全職員で検討し掲げている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝ミーティングで理念を再認識するよう唱和している。職員が目に入りやすい所へ掲示している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	面会時や家族会にて繰り返し伝える様にし、訪問者やご家族の方にもよく目のつく所へ掲示している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者と散歩や買い物に出掛けた際には、近隣の方と交流を持つように挨拶を交わしたり、世間話をしたりとお付き合いをしている。地域の方に気軽に来園してもらえるよう看板を設置したりしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事、ボランティア活動に利用者、職員が共に参加し交流を図っている。保育園等の行事にも積極的に参加するようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方に認知症、老人介護をいっそう認識して頂くために、講習会にて講師を勤めさせてもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を職員で話し合っている。サービスの質の向上を図るため、外部評価の結果もミーティングで報告し改善に向け取り組んでいる。又、評価は常時閲覧できるようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では日頃の取り組みや方針を話し合っている。運営推進委員会で出された意見は必ず職員に伝え、サービス向上に役立っている。	○	2ヶ月に1度の開催が必要とされているが、実際半年に1回しか開催できていない。今後、委員の方に働きかけを行い、必要性を理解いただき、2ヶ月に1回の開催を行なって行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	契約、規約の変更の際にはその都度報告に出向いたり、毎月1回ホーム便りを送っている。トラブルや相談事があれば包括支援センターや市町村との連携を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		○	現在制度を利用する方がいない為、勉強不足であるのが現実。職員全員が理解しておく事が必要なため、学ぶ機会を設けるようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのような行為が虐待であるか等、職員間で話し合い幅広く考え、常に意識し防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をし、理解を得て同意を頂いている。生活の中で疑問が出てくればその都度、説明をするようにし理解して頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見や苦情は些細なと思われることでも職員で話し合い、日頃のケアに活かしている。意見箱を設けたり、苦情処理機関があるということを知ってもらうため、掲示している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には必ず状態や状況を報告している。緊急時や急用時は電話にて報告をし、内容は記録に残している。毎月ホーム便りを作成し職員の異動や利用者個々の状況、近況報告等も記載しご家族に送付している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等を話しやすい環境を作るよう努めている。出された要望は職員間で話し合い今後の課題とより良いケアや運営に繋げている。意見箱の設置、苦情処理機関の掲示等をおこなっている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティング、月1回の職員会などで意見や提案を聞き管理者は運営者に報告している。運営者にも参加できる際には参加をお願いしている。管理者は職員とのコミュニケーションを大事にしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者はシフトに入っていない事で、柔軟な体制が取れるようになっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最小限度の異動を心掛けている。異動があった場合でも早く利用者との信頼関係が築けるよう努めている。利用者や全職員が信頼関係を築ける様、月に1名ずつではあるがユニットを異動している。異動した職員には利用者の状態の把握が出来るよう伝達を行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修には順番に参加するようにしており、報告を行なってもらい研修の資料、報告書は常時閲覧できるようにしている。</p>	○	外部より指導者の受け入れをし、勉強会を行なっていきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>老施協に加入しており、研修参加時交流を持った方の施設へ見学に行かせていただき、利用者にとって良いと思ったことは職員で話し合い取り入れ可能なことは取り入れ、サービスの質の向上に努めている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者、管理者は日頃より職員の話をよく聞くように心掛け、悩み等の把握に努めている。</p>	○	職員がゆっくりと休憩できる場の確保が必要
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は頻繁に現場を訪れ現場の理解をしようと全体を把握してくれている。 職員が向上心を持ち働ける様、職能評価を行なっている。 資格取得の為の支援を行なっている。 職員の健康にも配慮し年2回健康診断を行なっている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に生活状態を知る為、併設施設を利用されている時には、ホームの方へ招いたり、何度となく出向き、本人と顔見知りになって信頼関係を築くよう働きかけ、本人の思いを受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談、依頼があった場合親身になり話を聞き不安等を把握するよう努め、信頼関係の構築を心掛けている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にはご本人、ご家族の思いを受け止め、改善に向けたアドバイスを広い視野から見つめ、希望に沿ったサービスが提供できるよう対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人、ご家族に見学して頂き、グループホームでの生活に納得してもらってから利用の開始を行なうようにしている。急遽利用開始になった方には、心配りを行い、早くご本人の状態を見極め、生活に馴染める様支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩である事を念頭に置き、日々生活を共にしている。 職員、利用者が協力し合い毎日楽しく生活出来る様声掛けには配慮している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日頃よりこまめに利用者の様子を報告している。又、職員の考えも伝えるようにし、共に支援する為、ご家族の思いも知る事に努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事に参加してもらえよう働きかけ共に楽しい時間を過ごして頂きよりいっそうより良い関係が継続できるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、ご家族の希望で馴染みの理美容店に出掛けたり、お彼岸には先祖供養がしたいと要望があればお墓参りに行かれたりと、知人との関係が絶たれてしまわないよう手紙や電話連絡等の支援を行なっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う同士で過ごせる時間、場の提供を行なっている。 職員は利用者同士の関係を日頃よりよく把握しトラブルのない様見守りを行なっている。 自分の出来る事で他の方の手助けを行なう等の微笑ましい光景が毎日のように見られる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された後も、併設施設を利用されている時など行き来し馴染みの関係をつなげている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の話に耳を傾け又声かけを行い思いや意向の把握に努めている。 意思疎通困難な方の思いを察するよう行動や表情に留意している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに充分配慮し、家族や関係者に協力してもらい情報を得ている。又、日頃の生活や会話の中から見出すように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人のペースに合わせてサポートしている。 出来ること出来ないことシートの作成や毎日の生活から有する力等把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	自分らしく暮らして頂く為、ご本人、ご家族より要望を聞き、職員間でのカンファレンスにて、作成している。 作成した介護計画は再度家族に確認して頂いている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人の無理にならない様、プランの見直しを行なっている。 状態が変化した場合はその都度検討し、作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月1回の体重測定や、日々の水分量、食事量、変化の記録など個別ファイルを作成し、記入している。 気づきノートを活用し、出来た事、介護方法等些細なことでも記入し介護計画に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、利用者の健康管理でグループホームでの生活が継続されている。 基本的に通院は家族に行ってもらっているが、状況に応じ柔軟な体制で支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	保・幼・小・中学校との交流をもっている。 月1回のボランティア訪問、職員の働きかけで訪問して下さっている音楽ボランティアなどとの交流を図っている。	○	公共施設との連携が取れていない様に思うのでもっと働きかけて、協力を求めたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居希望を依頼されたケアマネジャーや併設施設に訪問しているケアマネジャーとも話し合う場を持っている。	○	今後ご本人の思いや希望を叶えられる様、広い視野から地域の他のサービス事業所やケアマネジャーとの交流を深めて行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターの方に運営推進委員として、加わってもらっている。 情報交換や話し合う場があり、協働できている。	○	成年後見制度や権利擁護事業についてなど、詳しく知る包括支援センターの方に学ぶ機会を設けていきたいと思っている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望(以前からのかかりつけ医)される主治医となっている為、往診等もある。 複数の医療機関、家族とも連絡を密にとり、家族と協力し受診支援を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>重度化、終末期対応はまだ行なわれていないが、今後対応が必要になった場合、ご本人、家族、医療機関、訪問看護、職員が連携を取り本人の気持ちを大切に安心して末期を迎えていただけるよう取り組んでいきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常にプライドを傷つけないような言葉かけを心掛けている。記録等も厳重に保管し個人情報保護に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思表示が困難な方の表情を読み取れるよう日々の関わりを多く持つようにしている。状態に応じ、自己決定を尊重するようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせた過ごし方を支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出、行事時にはおしゃれをされる方もおり、他の利用者の意見も参考にしている。毛染めやお化粧品を希望される方には職員が行なっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好調査を行い共に献立を役立てたり、食事の準備、片づけを一緒に行なっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好品を状態に応じ提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の状態に合わせて、本人にとって最良と思われる方法を取っている。 おむつ等の使用についても状態を把握し、家族等と相談し目標を立て自立支援を行なっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間を決めずに本人の希望を優先しゆったりと入ってもらえる様にしている。 拒否する方にも言葉がけを工夫したり職員を変えて声掛けしたりとできるだけ入浴して頂ける様に工夫している。	○	浴室、浴槽が暗く殺風景なのでくつろいで入浴して頂けるように工夫したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	共用空間にソファ、座椅子等設置し休息できる場を提供している。(冬場はこたつにする等)		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域の保育園・幼稚園の子供とのふれあいの場を提供したり、またホームで犬を飼い散歩などを行なっている。 趣味活動をする方もおられる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得、お小遣い程度ではあるが、利用者に管理してもらいお買い物される方もいる。 グループホーム内での管理になる為、通帳を作り管理するようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は希望を聞き外の空気に触れる時間を作ったりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の花の見学など利用者と一緒に話し合い実現している。 家族と共に食事会を設けたりしている。	○	利用者、家族と一緒に外出できる機会を作って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ダイヤルが回せなくても、職員がかけ話をしてもらったり、手紙の代筆を頼まれる事があれば対応している。 ホーム便りには本人にコメントを書いてもらったりしている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自由に周囲の方々が出入りできるよう、看板なども設置している。 併設のデイサービスやショートステイの方も気軽に訪問して下さっている。	
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が必要な方には、家族等へ説明を行い理解を得、同意書に署名していただくようにしている。現在、身体拘束は行なわれていない。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	併設施設、地域の方々に理解を求め、協力してもらいホーム全体の見守りを行なってもらっている。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげなく見守り、声掛けが必要な時は行なっている。 利用者の居場所は常に把握し、居室で長時間おられる時は随時声掛けや訪室するようにしている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所用品や危険物は、夜間、施錠できる所へ保管するようにしている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状態を充分把握し、想定できる危険を予測し話し合い予防法を検討している。 食材を細かく切って提供したり、喫煙時には火の始末を確認するなど事故防止に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	施設全体で救命講習を行ったり、グループホームで訪問看護師にお願いし初期対応を習ったりしている。緊急時対応マニュアルの作成。個々の想定しうる危険について把握する為、話し合いの場を持っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防団の方に協力が得られるよう体制が取れている。日中、夜間想定消防避難訓練を年2回行なっている。	○	非常食の準備を考えている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々にリスクを考え家族等には説明をしている。しかしその人らしい生活を優先させて頂きたいと言う園の取り組みを理解してもらい様、働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	医療連携体制の導入により、職員、訪問看護と連携を密に取り合う事で、より利用者の異変早期発見に繋がっている。変化に気づいた時はマニュアルに基づき速やかに対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服用している、薬や効能等一覧にし見やすい所へ置いている。副作用により起こりうるリスクの対処方法を学んでいる。服薬確認を毎食必ず行なっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材を工夫して提供したり水分補給をこまめに行なったり、又体を動かしたりと、自然排便できるよう支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は口腔ケアを行い、ケアが必要な方には支援している。希望により夜間義歯の管理困難な方には預かり保管している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスには気を付け献立を立て、定期的に栄養士にチェックして頂いている。食事は必ず職員と共に摂取する為、時折声掛けを行ったりして気を付けている。 食事量、水分量は毎食チェックし記入している。 個々の状態や慢性疾患の方には留意し、1人1人に合わせた調理方法、味付けの工夫をしている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症防止の為、新しい情報を得る為に保健所主体の研修に参加するなどして、情報を得ている。 職員はもちろん利用者、来園者にも手洗い、消毒を行なってもらうように準備している。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生面には気を配り調理器具の消毒を良く行っている。又、食材は新鮮なものを提供するように毎日利用者と買い物に出掛けている。残った食材も状態の確認を行い冷凍したり処分したりしている。 点検係りを作り、こまめに食材管理を行なっている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	気軽に出入りしてもらえる様、玄関先には季節の花を生けてみたりと、お客様を出迎える工夫を行なっている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活上の音は心地よいものだが、気分が嫌になるような不快な音や、臭いは出さないように配慮している。 季節の花や、雛人形、五月人形の飾り付けを行ったりして、家庭的で季節感のある雰囲気味わってもらえるようにしている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファ・籐の椅子・畳コーナーを設けたり、外にはベンチを置き独りで過ごしたり、気の合う者同士で語り合える場を提供し、安心して過ごせる共用の生活空間を作っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談し、使い慣れた家具など持って来てもらうようにしている。 ご本人の好みを大切に居心地の良いお部屋になるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室すべてに冷暖房が配置されているが、フローアにて一斉に調節できるようになっており、空調管理を行なっている。冬季にも1～2時間おきには換気を行い又、湿度計・温度計を使用し、快適空間に配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々安全に生活出来、身体機能が活用できるよう、環境づくりを工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	1人1人の持っている力を見い出せる様、職員は観察し状態に応じて支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダや園外に季節の花や野菜作りをし、草取りや水やりなどを利用者が行ない、お世話をされている。 又、ベンチを置き天気の良い日は外の空気に触れながら、利用者同士が会話され楽しまれている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者、職員が穏やかで明るい笑顔の中で家庭的な雰囲気である。

田畑や河川といった自然に囲まれ、四季を感じる事が出来たり、交通の便もよく環境に恵まれている。地域の方々にも暖かく接して頂き、段々とはあるが地域に根付きつつある。

四国八十八ヶ所のお遍路沿いにホームがある事を活かし、お接待が行なえるよう看板を設置し、気軽に尋ねて頂ける様にしている。

お遍路さんの訪問時は休息して頂き、交流を持つ事で利用者も喜び、お遍路さんにとっては、グループホームや認知症の理解にも繋がっている。